

ゆるものがたり

物由 語羅

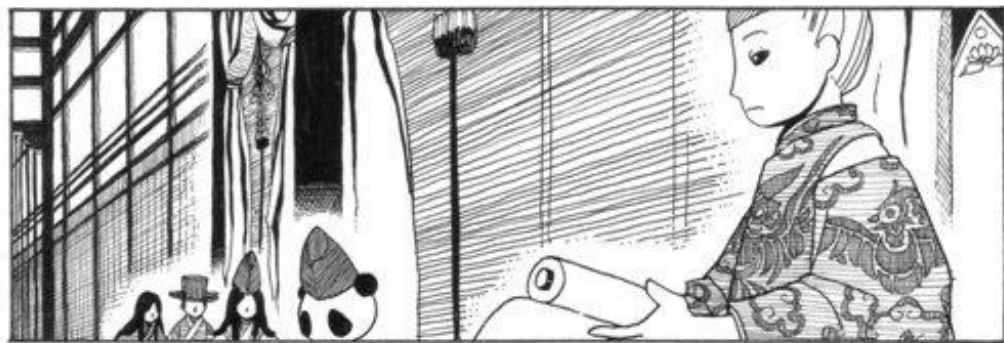
第参話

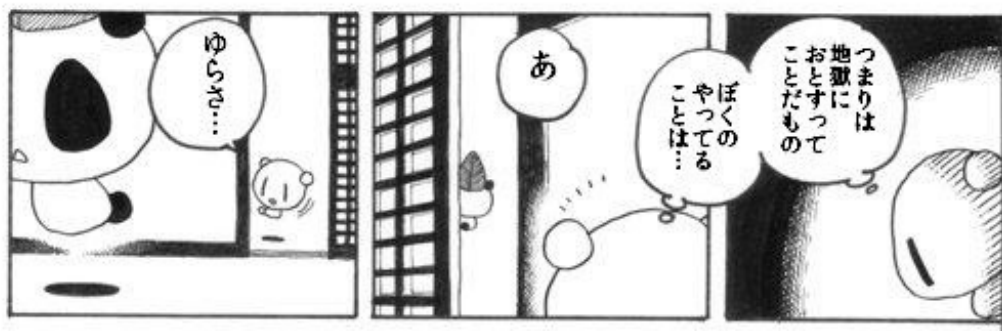
明

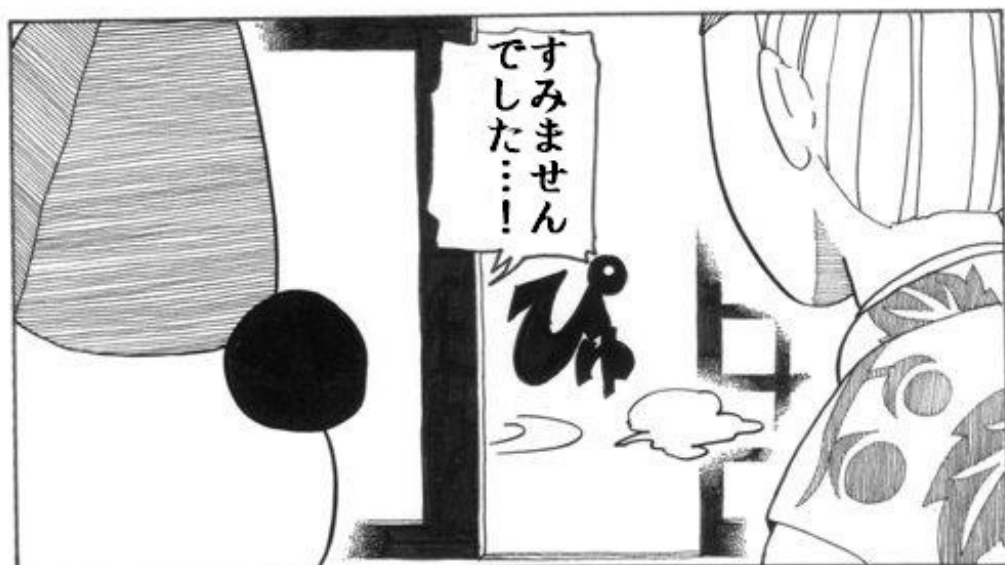


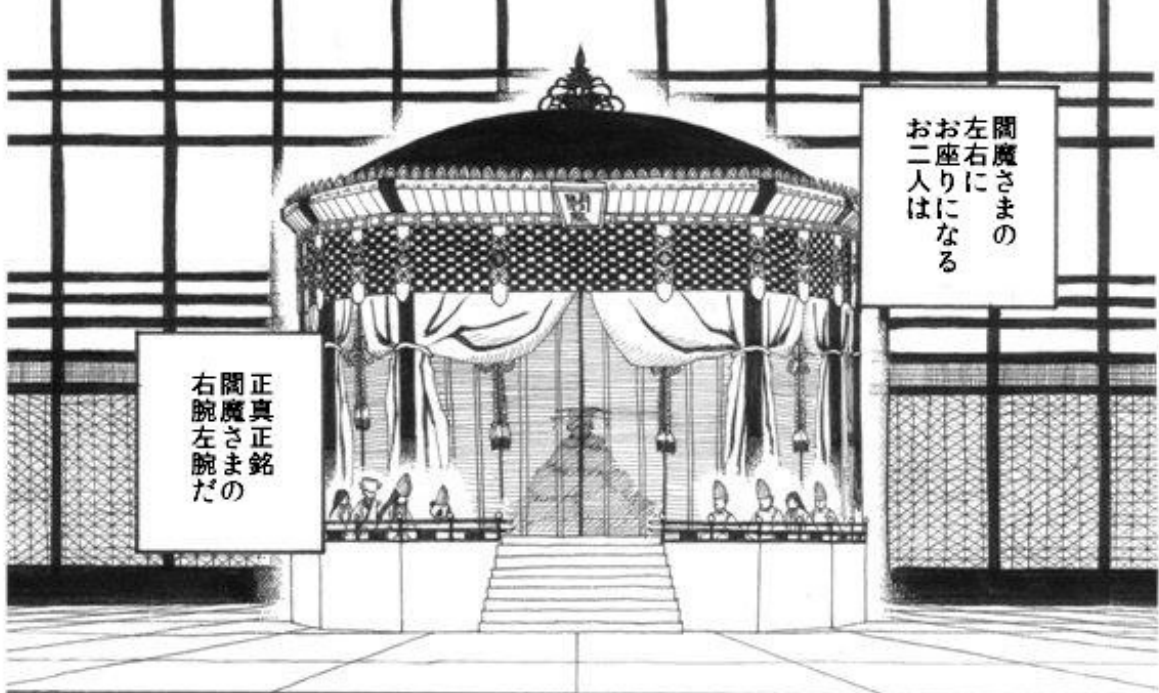
ここは地獄
六道の最下層

今日も閻魔庁は
七五日の
裁きを受ける魂が
行列を成します









閻魔さまの
左右に
お座りになる
お二人は

正真正銘
閻魔さまの
右腕左腕だ



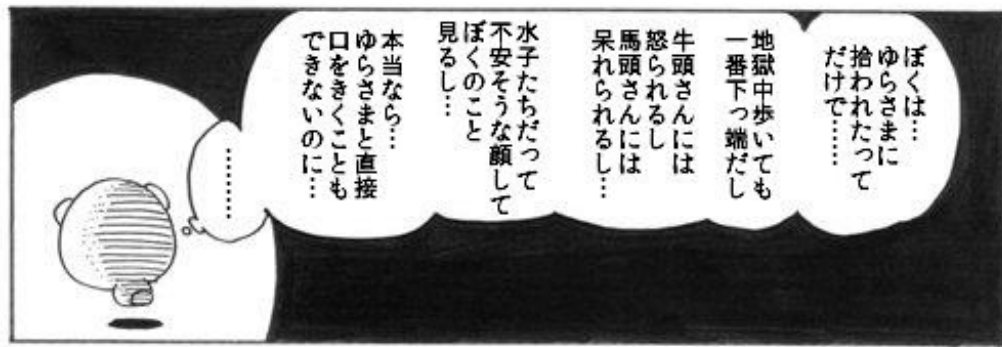
鬼や
牛頭馬頭も
上がらない



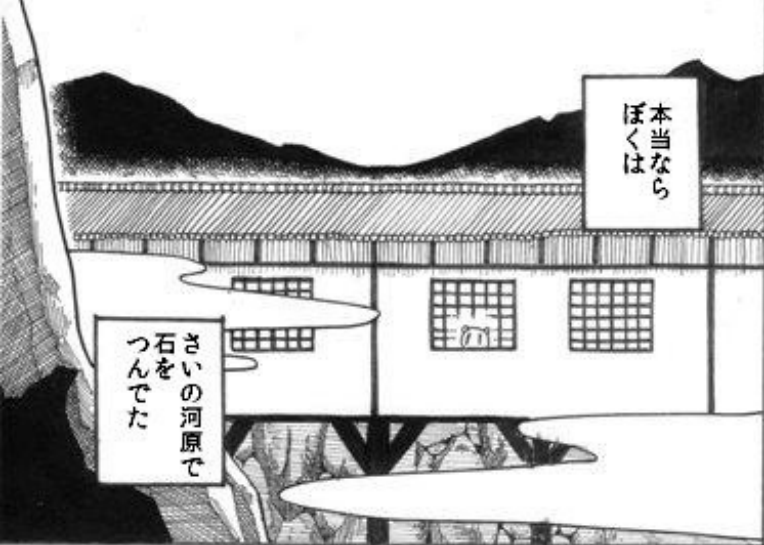
教えを
こう者も
少なくない



すれ違えば
誰もが頭を
垂れるし



ぼくは…
ゆらさまに
捨てられたつて
だけで…
地獄中歩いて
一番下つ端だし
牛頭さんには
怒られるし
馬頭さんには
呆れられるし…
水子たちだつて
不安そうな顔して
ぼくのこと
見るし…
本当なら…
ゆらさまと直接
口をきくことも
できないのに…

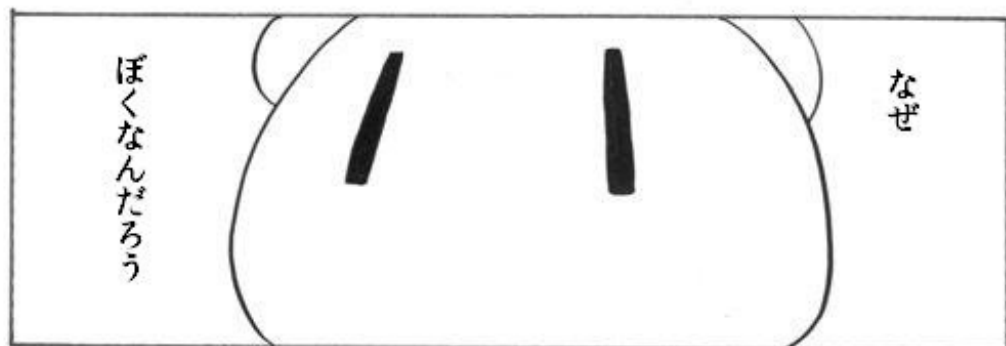


本当なら
ぼくは

さいの河原で
石を
つんでた



ゆらさまは
優しくて
勘違いして
しまう



なぜ

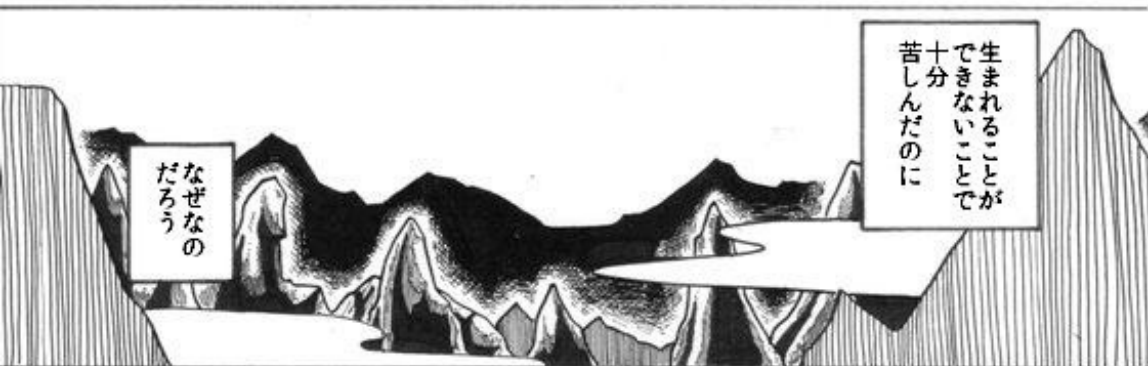
ぼくなんだろう



石を積んでる
あの子たちも
生まれ
たかったのに

生まれて
お母さんの
腕に抱かれ
たかったのに

お父さんや
お兄さんや
お姉さんと
遊びたかったのに





立場という
しがらみはすべて
皆で精進せねば

御心は
果たせませんよ



それに
くま殿は
立派にお役を
果たされて
いるじゃ
ありませんか

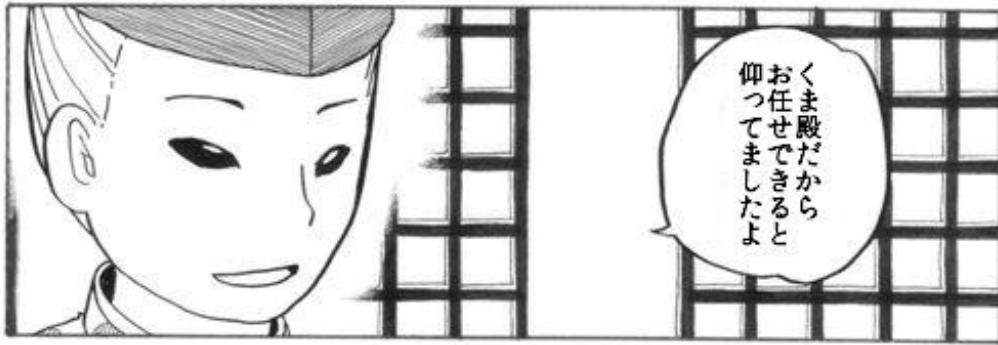


ぼくは
ただの
水先案内
で...

かつて

ゆら殿も
なされた
お役です

え

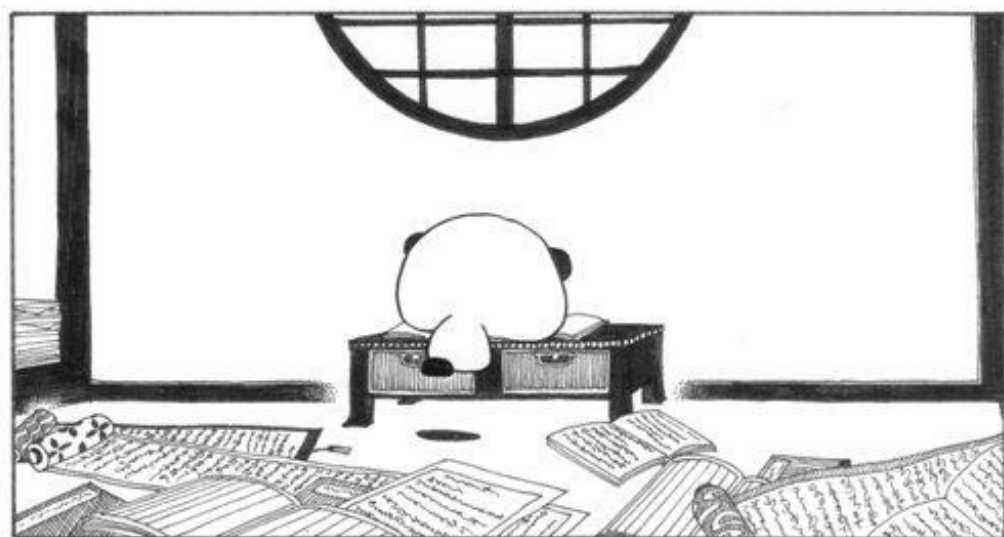
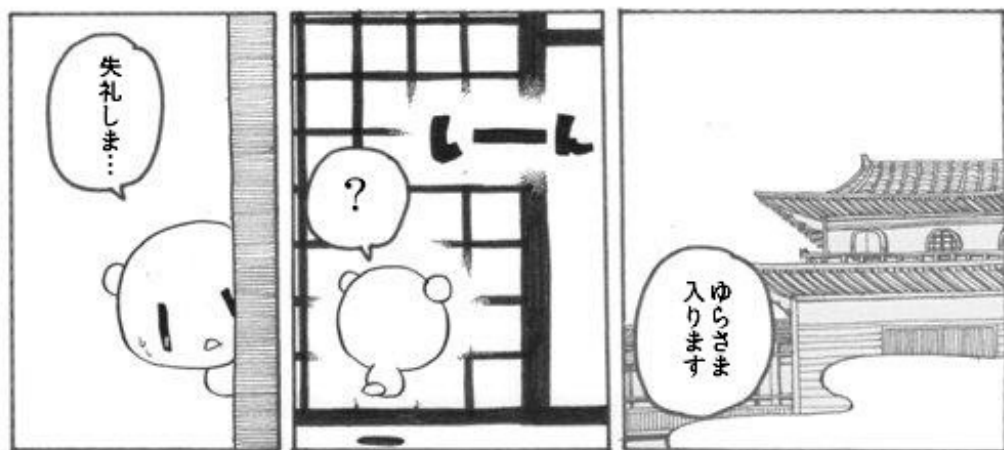


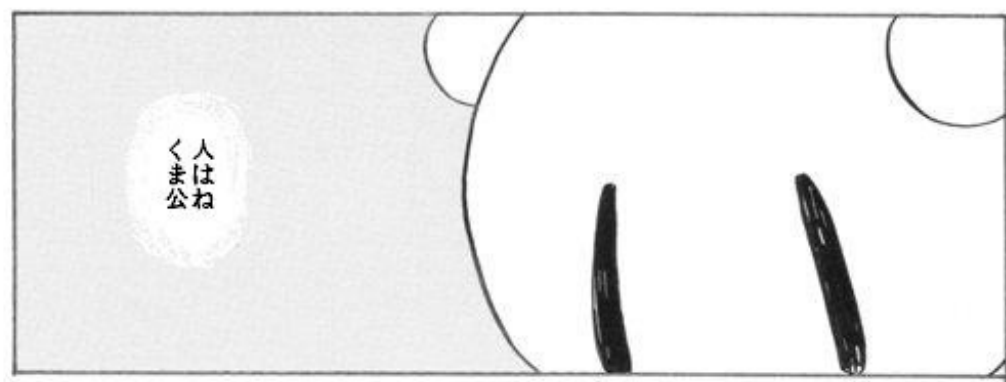
くま殿だから
お任せできると
仰ってましたよ

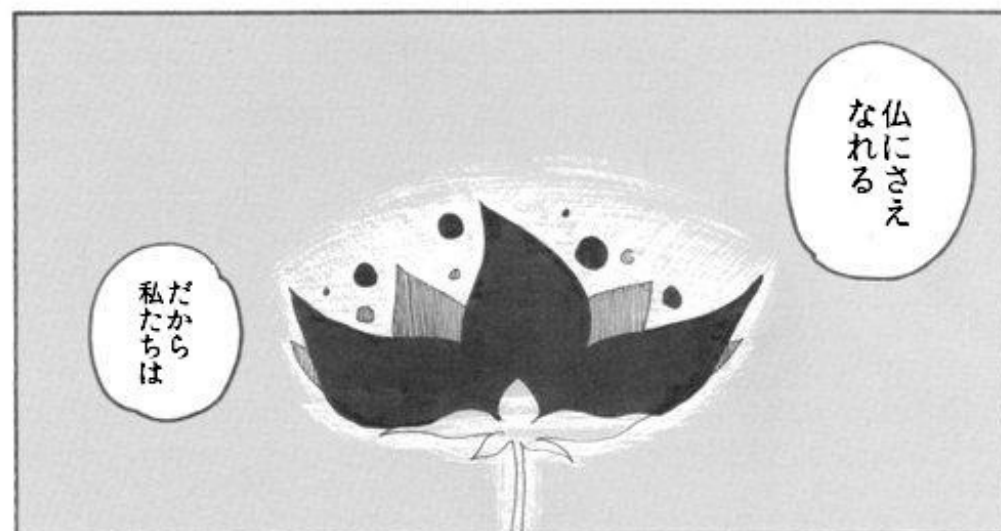
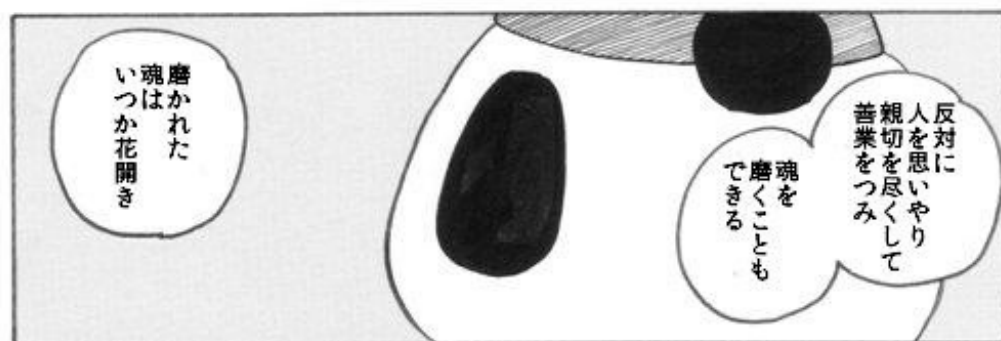
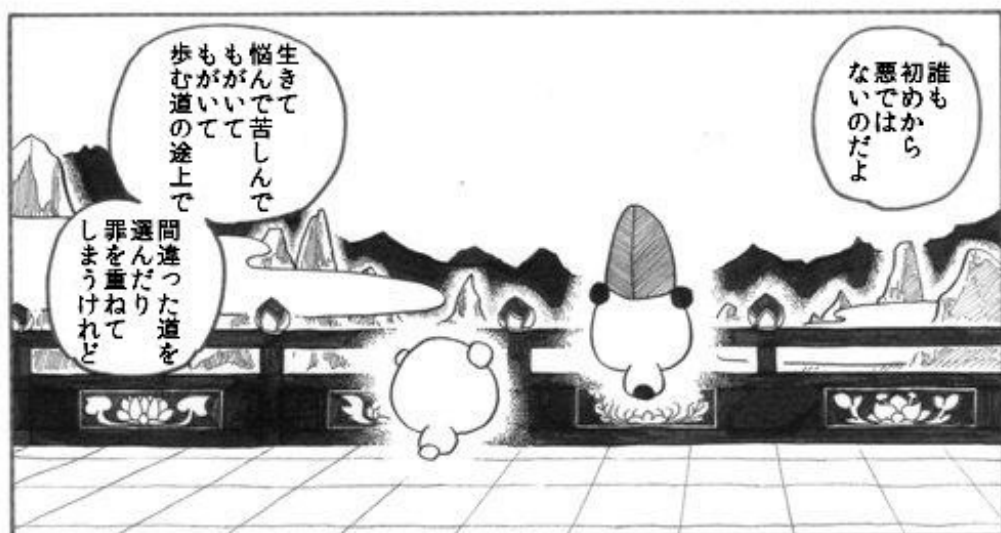


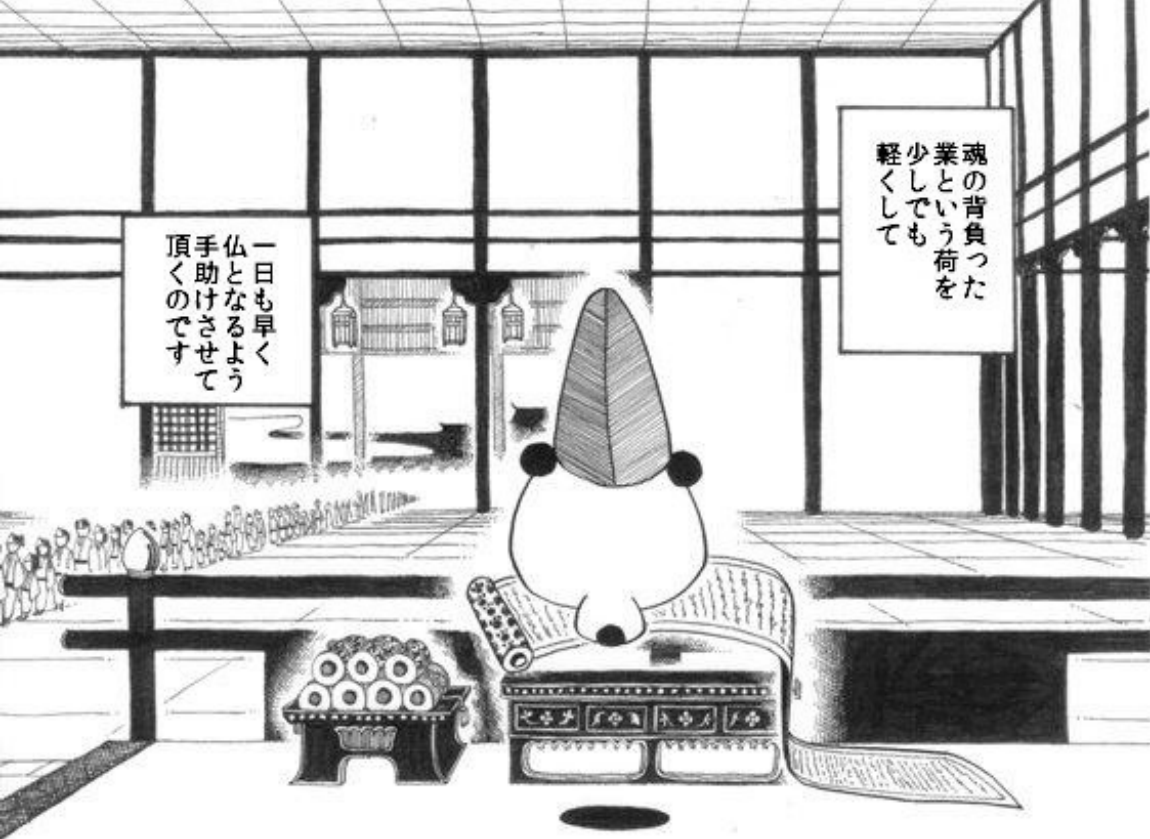
今ごろは
お部屋に
いらつしやい
ますよ

さ
ゆら殿が
おまちです



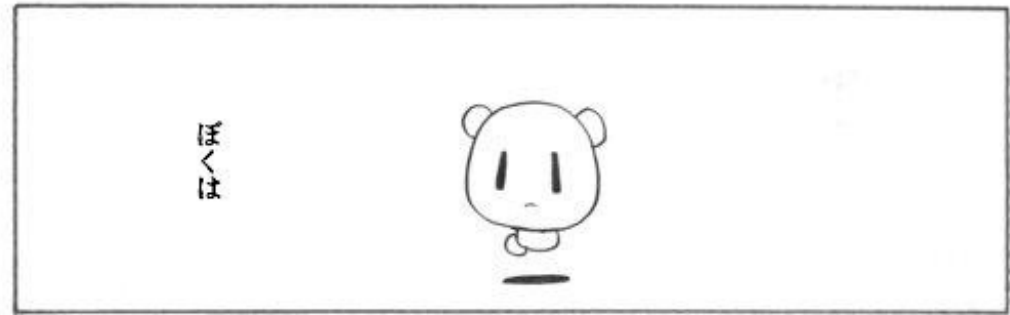
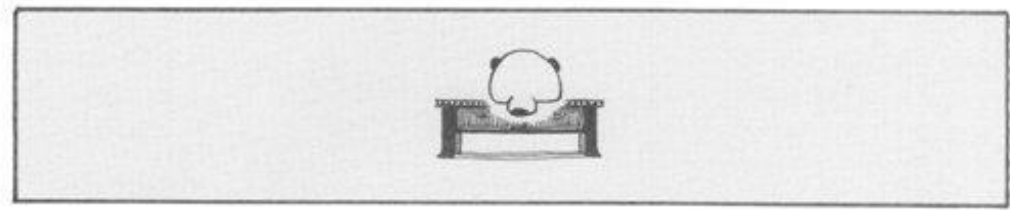




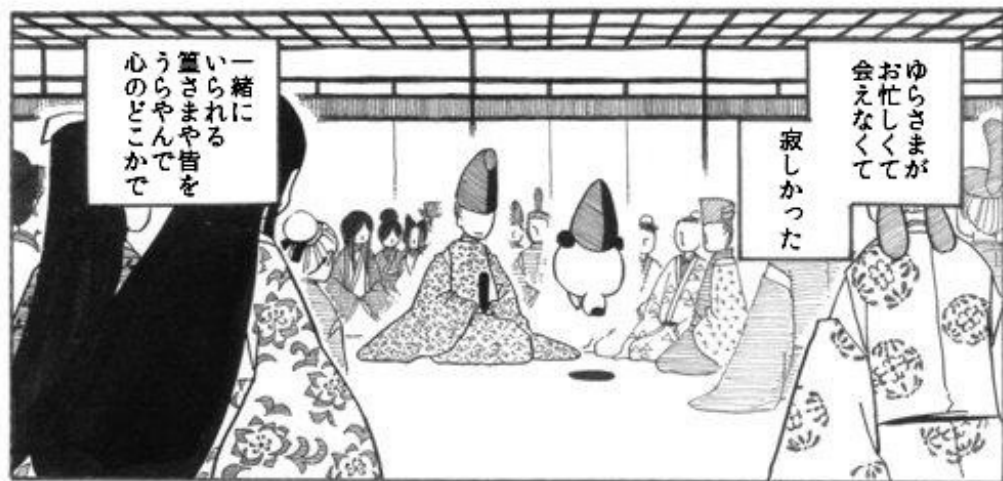


魂の背負った
業という荷を
少しでも
軽くして

一日も早く
仏となるよう
手助けさせて
頂くのです



ぼくは



一緒に
いられる
眞さまや皆を
うらやんで
心のどこかで

ゆらさまが
お忙しくて
会えなくて

寂しかった



ゆらさまは
ずつとずつと
裁きを受ける
魂のために
一生懸命
だったんだ

ぼくが
そうして
うじうじ
してる間も

でも

振り返って
くれないのを
疎んじた

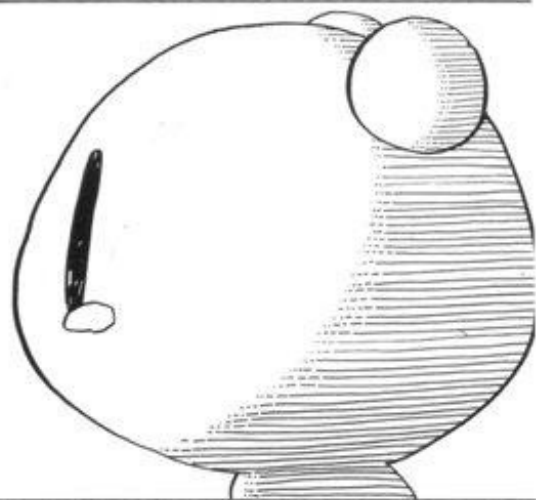


小さくて

ぼくは

わがままで

自分中心だ





わがままで
小さくて
自分中心で
身勝手で

ゆらさまの
言葉一つに
まいあがつて



たりない
けども

たりないなりに
明日も
がんばろうと
思えるんだ



『由羅物語』 第参話

- 完 -